

第116回:告発メールを本人に送った顛末

このコラムを書いているのはもちろん筆者本人であるが、当社ウェブサイトへの掲載手続きは担当者をお願いしている。毎度原稿が完成する都度、社内メールに原稿を添付して、関係者5-6人に送れば筆者の仕事は終わる。物書きの端くれとして中身はそれなりに聞いているつもりだが、たまにメールを送ったあと、誤字脱字や事実誤認に気付いて焦ることがある。大した文章でもないのに、何度も推敲を繰り返す関係で、ときにそれが逆効果になってとんでもない思い違いが生じることがある。くだんの重慶の乱でも、胡錦濤を胡耀邦、薄熙来を薄一波と書き間違えるチョンボを何度かしてしまった。

少しだけ弁解すると、この両胡と二薄には深い因縁と血縁があり、ウツカリ混同してしまうのも無理からぬところがある。鄧小平が文化大革命から復活し1978年に政権を掌握したとき、彼が真っ先に行った人事は、腹心の胡耀邦を抜擢して党組織部長(人事担当)に据えたことである。胡耀邦はその3年後に最高指導者である党主席に就任するが、その胡耀邦によって一気に中央委員に引き上げられたのが同じ共青団の流れを組む胡錦濤であった。だから、この両胡は師匠と弟子の関係にあたる。

胡耀邦は文化大革命で失脚した国家指導者の名誉回復に尽力し、薄熙来の父の薄一波(元副首相)は、彼のお陰で真っ先に名誉回復を果たし、1979年には10年ぶりに副首相に返り咲き、爾来顧問委員会の重鎮として権力をふるうことになる。顧問委員会とは文革の地獄からゾンビのように甦った老人連中が院政を敷く元老院のような存在であった。その中心人物の薄一波は、かばねの「薄」が示すとおり、人情薄きこと紙の如き人物で、胡耀邦に対する大恩を忘れ「改革開放は資本主義の害毒をまき散らすものである」という理屈でこれに反対し、胡耀邦や趙紫陽批判の急先鋒をつとめる。

最後は鄧小平も庇いきれなくなり、胡耀邦は失脚し気の毒なことに二年後心臓発作で憤死する。趙紫陽は天安門事件で身柄を拘束され、死ぬまで軟禁状態に置かれることになるが、その悲劇の胡耀邦、趙紫陽がそれぞれ最も信頼した腹心が胡錦濤と温家宝だったのは何かの因縁だろう。重慶事変で胡温聯合軍が外華内貧の薄熙来を袈裟懸けに斬り捨てたとき、そこに多少の個人的感情が絡んだとしても不思議はないのである。だから彼らの名前は混同し易いので注意が必要だ。「薄一波が胡耀邦を失脚に追い込んだ25年後に、今度は弟子の胡錦濤が息子の薄熙来を失脚させた」、これが正解だ。

閑話休題、筆者が社内で氏名混同や事実誤認のチョンボをしたとき、頭を下げて原稿を差し替えるのも恥ずかしいので、送信後すぐ間違いに気付いたときは、すっとぼけてメールを削除している。幸いなことに当社のシステムでは、受信者がメールを開封したか否か瞬時に分かり、相手の受信ファイルも削除できるので証拠を消去することが可能である。

ところが世間一般のメールは取消不能である。こんな悲喜劇を聞いたことがある。筆者の勤務先ではなく、チャイニーズの世界で発生した珍事である。さる金融機関で働く四十がらみの管理職、仮に珍課長とするが、彼が女性新入社員の張さんを気に入り、甲斐甲斐しく彼女の面倒を見るようになった。ところが彼の厚意が

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

彼女には鬱陶しい。男は年齢四十を過ぎればその容姿に責任を持つ必要があるというが、珍課長は脂ぎったヒキガエルのような風貌、そのネチネチした口調までが脂でギトギトしていたと張さんは語っている。そんなある日彼女に珍課長からお節介焼きのメールが届き、発信者名が珍課長のファーストネームであるのを見た張さんは卒倒しそうになった。

本人は親しみを込めたつもりだろうが、受信者からみればセクハラである。彼女は悩んだ末、職場の仲間に相談しようと思いつき、社内メールにくだんの珍書簡を添付して、顛末を書き認めた。ところがセクハラに気が動転して、頭ものぼせていたのだろう、発信先に何と珍課長のアドレスも加えてしまった。送信ボタンを押した瞬間にアッと気付いたそうだがもう遅い。手遅れである。発信者が受信者のメールを削除することは不可能である。彼女は周章狼狽、度を失い気も狂わんばかりだった。幸い珍課長は出張中で、オフィスにはいなかったが、翌日帰ってきたらお仕舞いだ。システムを担当する部門に事情を話して削除してもらうことは可能だが、彼女が同僚に送った告発メールのなかには、チビ・ハゲ・デブ等の罵詈雑言が詰まっていたようで、関係部署に事情を説明する度胸もなかったようである。

相談を受けた同僚たちも困ったようだが、彼女がどうしてもシステム部には知られたくないと泣いて頼むので、腹をくって一芝居打つことにした。部下が珍課長の出張先に電話し、「課長、システム部から連絡があり、急遽ウィルス退治の作業を行うことになりました。私が代理で作業を行いますので、課長のパスワードを教えてください」と珍課長を騙し、パソコンを開けてようやくメール削除に成功したという。

中国語でセクハラのことを「性騷擾」という。日本で大きな問題となっているセクハラは、中国でも深刻な社会問題となっており、指導者の秘書には女性秘書を充てないと定めた地方政府もある。海峡の向こうの台湾では既にセクハラ防止法(性騷擾防治法)が施行されている。

日本では幸い、セクハラが犯罪だという考えが社会に浸透しつつあるが、パワハラに関しては企業内でも何が悪いと居直るバカが多く、その意味ではセクハラ以上に根深い問題である。パワハラとは上司が職務的立場を利用して、立場の弱い部下に無理難題を強要したり、嫌がらせを行う事を指すが、これを中国語で何と表現するか中国人に聞くと、適当な言葉が見当たらないという。何故かといえばパワハラは中国では少ないようだ。たしかにその通りで中国人の部下は強い。上司に怒鳴られたら、必ず怒鳴り返してくる。日本のように俯いてじっと罵声に耐えるヤワな部下はいないのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年4月10日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。